

# 公益財団法人 福岡県産業・科学技術振興財団

## I 法人の概要（令和5年4月1日現在）

- 所在地 福岡市早良区百道浜三丁目8番33号
- 設立年月日 平成元年11月1日
- 代表者 理事長 津田 純嗣
- 基本財産 200,000千円
- 北九州市の出捐金 2,343千円（出捐の割合1.2%）
- 役員数

	人 数			
	合 計	うち本市からの派遣	うち本市退職者	うちその他
役 員	14人	0人	0人	14人
常 勤	1人	0人	0人	1人
非常勤	13人	0人	0人	13人
職 員	56人	0人	0人	56人

## II 令和4年度事業実績

公益財団法人福岡県産業・科学技術振興財団（ふくおかI S T）は、福岡県の産業構造の転換や地域経済の活性化を目的に、平成元年11月1日に県の出捐により設立し、県内企業・大学等の基礎研究から応用研究、実用化研究までを一貫して支援するとともに、これらの研究成果を地域産業に展開することによって、その振興を図ってきた。

### 《各事業の概要》

#### 1 産学官連携・研究開発事業

コーディネーターを活用し企業ニーズと大学や研究機関等の優れた研究シーズのマッチングに積極的に取り組むとともに、国事業等を活用して新技術・新製品に繋がる産学官共同研究プロジェクトを実施した。

また、具体的な研究成果の発表会や展示会を通じて、企業の事業化への展開を図った。

##### (1) 産学コーディネートプログラム

- ・産学コーディネート会議5回、プロジェクト研究会241回
- ・コーディネート活動：競争的資金提案32件、採択20件

##### (2) I S T研究開発F S事業：6課題

##### (3) 国からの補助（受託）事業：戦略的基盤技術高度化支援事業（九州経済産業局）及び成長型中小企業等研究開発支援事業（九州経済産業局）

##### (4) 成果の活用：事業化件数5件

#### 2 有機光エレクトロニクス関連事業

有機光エレクトロニクス研究分野の産業化を図るため、基礎研究を行う九州大学O P E R Aとの連携関係を基に、有機光エレクトロニクス実用化開発センターを平成25年4月に開設した。

##### (1) 企業からの受託・共同研究：145件

##### (2) 有機E L等次世代発光材料分野参入促進支援補助金：3件採択

(3) 有機光エレクトロニクス産業化研究会：1回オンライン開催（参加者数91人）

### 3 ロボット・システム開発関連事業（ロボット・システム開発拠点化の推進）

#### (1) 研究開発・製品化支援

・経済産業省補助事業：戦略的基盤技術高度化支援事業

#### (2) 製品開発支援事業

・令和4年度デジタル化関連製品開発支援事業：製品開発7課題

・令和4年度グリーンデバイス関連製品開発支援事業：製品開発6課題

・令和4年度半導体安定供給技術開発・実証支援事業：製品開発1課題

#### (3) 人材育成

ロボットやシステム産業における新たなニーズに適応した製品やサービス開発を行う企業に必要とされる技術人材を育成することを目指し、技術習得のための講座開発・実施に取り組んだ。また、講義動画をオンライン上で視聴するオンライン講座の提供を開始するとともに、半導体関連人材育成講座を開発・実施した。

① システム構築技術講座（延べ 83名受講）

② システム要素技術講座（延べ 290名受講）

③ 基盤技術講座（延べ 1,176名受講）

④ 公開オンラインセミナー（延べ 919名参加）

#### (4) ベンチャー育成・支援

インキュベーション施設の運営、回路設計ラボ等による設計開発支援、開発資金支援を柱にロボット・システム関連ベンチャーの育成に注力した。

① ロボット・システム開発センターの活用・運営

・回路設計ラボ利用時間：5,226時間

② 三次元半導体研究センターの活用・運営

③ 社会システム実証センターの活用・運営

#### (5) 交流・連携促進

国内の企業・支援機関との交流を促進し、福岡の拠点性の発信を行った。

大規模展示会へ出展し、事業内容や成果の周知及び他団体との交流・連携促進を図った。

### 4 R u b y ・コンテンツ関連事業

福岡県R u b y ・コンテンツ産業振興センターを中核施設として、日本人が開発した生産性の高いプログラミング言語R u b yによるソフトウェア産業の育成とゲームをはじめとしたコンテンツ産業の振興を推進するとともに、研究開発、人材育成、ベンチャー育成支援、県内企業の交流・連携などを総合的に支援し、R u b y関連企業やコンテンツ産業の集積促進を図った。

### Ⅲ 令和4年度決算

#### 1 貸借対照表(総括表)

令和5年3月31日現在(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
<b>I 資産の部</b>			
1 流動資産	334,228,277	426,996,883	▲92,768,606
普通預金	121,433,825	171,621,828	▲50,188,003
未収金	191,166,983	249,165,460	▲57,998,477
前払金	21,627,469	6,209,595	15,417,874
2 固定資産	1,521,967,044	1,527,442,204	▲5,475,160
(1) 基本財産	200,000,000	200,000,000	0
有価証券	100,000,000	100,000,000	0
定期預金	100,000,000	100,000,000	0
(2) 特定資産	31,171,828	16,506,528	14,665,300
敷金特定預金	18,171,828	16,506,528	1,665,300
特定費用準備資金	13,000,000	0	13,000,000
(3) その他の固定資産	1,290,795,216	1,310,935,676	▲20,140,460
建物	874,463,072	897,275,750	▲22,812,678
建物付属設備	197,366,226	271,115,243	▲73,749,017
構築物	6,772,958	8,171,728	▲1,398,770
備品	199,997,508	122,284,598	77,712,910
無形固定資産	2,801,451	2,610,356	191,095
求償権	9,394,000	9,478,000	▲84,000
投資有価証券	1	1	0
資産合計	1,856,195,321	1,954,439,087	▲98,243,766
<b>II 負債の部</b>			
1 流動負債	162,065,136	302,636,802	▲140,571,666
未払金	74,800,865	78,695,893	▲3,895,028
前受金	11,090,039	18,281,108	▲7,191,069
預り金	6,174,232	5,659,801	514,431
仮受金	0	0	0
短期借入金	70,000,000	200,000,000	▲130,000,000
2 固定負債	27,324,028	26,427,628	896,400
預り敷金	17,930,028	16,949,628	980,400
求償権償却引当金	9,394,000	9,478,000	▲84,000
長期未払金	0	0	0
負債合計	189,389,164	329,064,430	▲139,675,266
<b>III 正味財産の部</b>			
1 指定正味財産	200,000,000	200,000,000	0
(うち基本財産への充当額)	(200,000,000)	(200,000,000)	(0)
2 一般正味財産	1,466,806,157	1,425,374,657	41,431,500
正味財産合計	1,666,806,157	1,625,374,657	41,431,500
負債及び正味財産合計	1,856,195,321	1,954,439,087	▲98,243,766

## 2 正味財産増減計算書（総括表）

自 令和 4 年 4 月 1 日

至 令和 5 年 3 月 31 日

（単位：円）

科 目	当年度	前年度	増 減
<b>I 一般正味財産増減の部</b>			
1 経常増減の部			
経常収益	1,205,159,997	1,124,265,075	80,894,922
経常費用	1,183,976,203	1,266,913,334	▲82,937,131
評価損益等調整前当期経常増減額	21,183,794	▲142,648,259	163,832,053
当期経常増減額	21,183,794	▲142,648,259	163,832,053
2 経常外増減の部			
経常外収益	21,684,236	14,457,594	7,226,642
経常外費用	1,436,530	148,518	1,288,012
当期経常外増減額	20,247,706	14,309,076	5,938,630
当期一般正味財産増減額	41,431,500	▲128,339,183	169,770,683
一般正味財産期首残高	1,425,374,657	1,553,713,840	▲128,339,183
一般正味財産期末残高	1,466,806,157	1,425,374,657	41,431,500
<b>II 指定正味財産増減の部</b>			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	200,000,000	200,000,000	0
指定正味財産期末残高	200,000,000	200,000,000	0
<b>III 正味財産期末残高</b>	1,666,806,157	1,625,374,657	41,431,500

## IV 令和5年度事業計画

ロボット・システム関連事業に関して、これまでの「シリコンシーベルト福岡プロジェクト(SSBプロジェクト)」により培ってきた半導体関連技術に、デジタル技術・ロボット分野等の先進的な技術を融合し、半導体・デジタル関連技術開発及び新分野の製品開発による新産業の創出を目指す。また、産学官連携・研究開発事業では、産学官連携による研究開発プロジェクトを立ち上げ、実用化を目指した研究開発を支援することによって、新技術・新製品の創出を図り、地域産業の振興を目指す。

有機光エレクトロニクス関連事業では、九州大学OPERAをはじめ、北部九州に立地する3拠点による広域連携体の組織力を活かし、実用化に向け基礎研究（九州大学OPERA）から応用研究（ISIT（福岡市））、実用化開発研究（i3-opera）まで、連携して取り組む。

Ruby・コンテンツ関連事業では、福岡県Ruby・コンテンツ産業振興センターがバックアップすることで、研究開発、人材育成、ベンチャー育成支援、県内企業の交流・連携など総合的な取組を推進し、Ruby関連企業や、コンテンツ産業の集積促進を図る。

## V 令和5年度予算

### 1 収支予算書

自 令和5年4月1日

至 令和6年3月31日

(単位：千円)

科 目	公益目的事業会計	その他会計	法人会計
I 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	0		192
事業収益	539,209		5,979
受取補助金等	566,803		0
受取負担金	0		0
投資有価証券受取利息	0		0
雑収益	0		0
他会計等繰入金	0		0
経常収益計	1,106,012		6,171
(2) 経常費用			
事業費	1,223,947		0
管理費	0		6,171
他会計等繰出金	0		0
経常費用計	1,223,947		6,171
評価損益等調整前	▲117,935		0
当期経常増減額	▲117,935		0
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0		0
(2) 経常外費用	0		0
当期経常外増減額	0		0
他会計振替額	0		0
当期一般正味財産増減額	▲117,935		0

## VI 役員名簿

令和5年7月1日現在

役員名	氏名	備考
理事長	津田純嗣	(株)安川電機特別顧問
専務理事	古川弘信	(公財)福岡県産業・科学技術振興財団専務理事
理事	土屋直知	(株)正興電機製作所代表取締役会長
//	荒牧敬次	(公財)九州先端科学技術研究所専務理事
//	江副春之	(公財)北九州産業学術推進機構専務理事
//	間野彰彦	(公財)飯塚研究開発機構専務理事
//	田代裕靖	(株)久留米リサーチ・パーク代表取締役専務
//	山田真治	(一財)九州オープンイノベーションセンター常務理事
//	池田章	(独)中小企業基盤整備機構九州本部長
//	見雪和之	福岡県商工部長
//	吉海和正	福岡県工業技術センター所長
//	池永紳也	北九州市産業経済局長
//	鈴木順也	福岡市経済観光文化局長
監事	清水剛	福岡監査法人代表社員公認会計士